ー 四王寺山の歴史 ー

四王寺山は古くは大野山とも大城山ともいわれていました。天智天皇４（６６５）年に大野城が築かれたことで、日本の防衛という重要な役割を担いました。

それから１１０年後、奈良時代の宝亀５（７７４）年に四王寺（四王院）が創建されます。これは、当時外交関係が緊張していた新羅の日本への呪詛の動きに対し、大野山の清浄な地を選んで四天王像を安置し、呪詛を祓い国を護る祈祷をすることが目的でした。その後、四王寺山と呼ばれるようになったと考えられます。

戦国時代になると岩屋城が築かれ幾多の合戦の場となり、天正１４（１５８６）年の戦いでは島津氏の攻撃により、高橋紹運ら将兵が玉砕しました。城跡には高橋紹運の忠義を讃える石碑があり、現在でも多くの人に偲ばれています。

近年は里山として親しまれている四王寺山。かつて、山中の四王寺地区の人々は、麓の太宰府まで通学や商売のために約４ｋｍの山道「太宰府町道」を通っていました。現在は荒廃していますが、当時の思い出や風景を後世に伝えるべく、四王寺山勉強会の手で整備が行われています。

古来より連綿と続く歴史ある四王寺山は、多くの人々に守られ愛されながら今も太宰府を静かに見守っています。

ー 守り、語り継ぐ四王寺山 ー

四王寺山勉強会は、四王寺山にまつわる歴史・文化遺産をはじめ、自然や環境、風景について調査活動と勉強を行っているボランティアグループです。

平成２０年度から２９年度にかけて、古都大宰府保存協会を事務局として行われた太宰府文化遺産調査活動では、活動テーマの１つとして四王寺山に残る三十三石仏について調査を行い、その一体一体について記録と検証作業を行いました。

これらの調査成果は、２０１３年に『四王寺山三十三石仏現況調査報告書』として刊行され、多くの方々に四王寺山の歴史と魅力を知っていただきました。

旧太宰府町道の道筋

石仏の現地調査風景

三十三石仏の報告書

◆未来へ伝えていく市民活動

また、かつて四王寺村と太宰府町を結んでいた旧太宰府町道を守り伝えていく活動を行っており、２０１１年１月に太宰府市民遺産第３号に、また２０１９年８月には四王寺山三十三石仏が第１５号の認定を受け、それぞれ歴史・伝承・史跡・風景を紹介し、語り継いでいく活動に取り組んでいます。

ー 聖地四王寺山 祈りの風景 ー

四王寺山が歴史的に確固たる存在感を得ているのは、天智４（６６５）年に築造されたとされる国指定特別史跡「大野城」ですが、その後ただの軍事拠点ではなく、聖地四王寺山として歩んでいくことになり、むしろ現在の山名が“四王寺山”である如く、聖地としての性格の方が主となっていきます。

宝亀５（７７４）年の四王寺（院）の創建、平安末期に広がった経塚造営、鎌倉時代にかけて原山無量寺の隆盛、一遍上人や栄西の登場、室町期には岩屋磨崖石塔群など聖地としての命脈を保ち続けました。その他、昭和初期まで記録に現れる水瓶山の雨乞い祈祷や、現在も毎年１月３日には多くの参拝者が集う毘沙門天詣りの行事など枚挙にいとまがありません。

そして、江戸後期（寛政年間）に四王寺山の尾根線上をなぞるように三十三観音霊場（札所）が設置され、今に姿を伝え信仰の対象とされているのです。

毘沙門天詣りの風景

観音霊場での家族の祈り

岩屋磨崖石塔群

◆四王寺山に祀られる観音様

観音菩薩は、姿を自在に変えて人々を救う菩薩として古くから信仰されてきました。仏教において人々がおもむく６つの世界（六道）の観音様を六観音と呼んでいます。

名称	特徴	札所
聖観音 しょうかんのん	・様々な姿に変化して人びとを救う観音菩薩の基本形。 ・手足が２本で、顔が１つと、ほぼ人間と同じ姿。シンボルとして、手に蓮の花を持ち、蓮華台に乗っていることが多い。	11･21 28･31
十一面観音 じゅういちめんかんのん	・変化観音のなかで最も古くから仏像がつくられ信仰されてきた１つ。 ・特徴は頭上にある１０の小顔と１つの仏様。これにより四方を観察し、助けを求める人々をもれなく救済してくれる。	2･8 15･17 33
千手観音 せんじゅかんのん	・正式には千手千眼観音といい、変化観音のなかでもパワフルな姿をした仏像。 ・手が左右からたくさん伸びているのが特徴であるが、実際に千本あるのは少なく、合計４２本の手がある像が一般的。	3･4･5･10 12･16･19 20･22~26 30･32
如意輪観音 にょいりんかんのん	・あらゆる願を叶えてくれる如意宝珠と、煩悩を打ち砕く法輪を持つ変化観音。 ・物思いにふけっているようなポーズと、右ひざを立てた輪王座と呼ばれる独特の座り方に大きな特徴がある。	1･7 13･14 18･27
馬頭観音 ばとうかんのん	・変化観音のなかで唯一激しい怒りの表情をみせている。 ・頭上に馬の顔を乗せているのが特徴で、馬が牧草を食べるように、悪や煩悩を食べつくすという強い意志を表している。	9･29
不空羂索観音 ふくうけんさくかんのん	・羂索という古代インドで狩猟などに使われた道具を持ち、この羂索で全ての人を、もれなく救済することを表している。 ・宗派によっては、准胝観音が六観音のひとつに数えられる場合がある。	

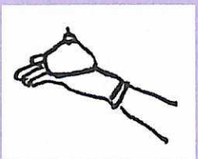
ー 観音菩薩の主な持物 ー

蓮華（れんげ）
清らかな心や真理、悟りを象徴する。

水瓶（すいびょう）
水を入れる器（水差し）に功徳水が入っている。

宝剣（ほうけん）
魔や煩悩を払い、迷いを絶ち切る。

宝輪（ほうりん）
煩悩を打ち砕く。説法の広がりを表す象徴。



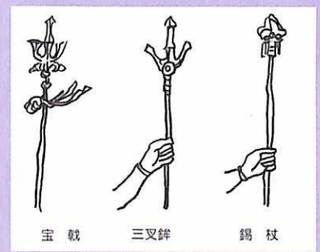
宝珠（ほうじゅ）
願いごとが叶えられる神秘的な宝もの。

数珠（じゅず）
諸仏が速やかに来る。

羂索（けんさく）
五色の糸をよった縄で煩悩をとらえ一切を救済する。

合掌（がっしょう）
両手を合わせることにより仏と一体になり仏への帰依を示す。

施無畏印（せむいいん）
“恐れなくてもよい”と相手を励ますことを示す印相。



日輪（にちりん）

月輪（がちりん）

宝戟（ほうげき）
先端が３つに分かれた杖状の武器（千手観音が左手に持つ）。

錫杖（しゃくじょう）
先端に輪がついている杖で突くと音が鳴る。善心を発す。

宝鉢（ほうはつ）
鉄鉢とも称する仏具のひとつ手を腹前で組合わせ持つ。

参考文献『石仏探訪必携ガイドブック』日本石仏協会

石仏（三十三札所）巡りをする時、そのお姿とともに“持ち物”にも興味を抱くことにより、楽しさが膨らんできます。そのうえ、仏像がその手に持つ器物だけでなく、身につけている装飾物、身近に置かれている道具なども併せて知っていくと、より身近に感じ、“観音様ファン”になっていくのではと思います。

四王寺山三十三石仏巡り

12番札所千手観音坐像絵：広野 司

四王寺山勉強会
公益財団法人 古都大宰府保存協会

令和３年３月

太宰府市民遺産第１５号
「四王寺山の三十三石仏」の由来

江戸時代末期の寛政１０（１７９８）年、福岡の城下町で大火事があり、出火した火災が城内まで飛び火し、民家千軒が焼失しました。その翌年には天然痘が大流行したり、豪雨で山笠行事が３日間も日延べされるなどの異変が続きました。

このような時代背景のなかで、博多浜口町・横町などの主だった人々が発起して、太宰府の華台坊良覚に相談、四王寺山一円に石仏巡りの札所をつくり、観音様のご利益におすがりして、この世の不幸から逃れようとの思いからでした。

そのため、西国三十三ヶ所霊場（近畿一円の有名な観音寺）の土を集めて基壇に敷き、三十三体の石像、台座を刻み、順路を含めた山林の開拓など諸々の困難を伴う大事業を、博多、宇美、太宰府などの心ある人たちが総力をあげて分担しあい、四王寺山全域にわたる霊場建立を成し遂げました。

霊場には磨崖仏のほか、日本を代表する六観音など三十三体の石像が配置されています。四王寺山を歩くと、二百余年にわたってこの世の不幸や災難から人々を救うために佇んでおられるお姿に接することができ、また古人の深い信仰心や熱い思いに寄り添うことで、山歩きの醍醐味がさらに増してくるのです。

本マップに関するお問い合わせ先
公益財団法人　古都大宰府保存協会
〒818-0101 福岡県太宰府市観世音寺四丁目６番１号
TEL (092)922-7811　FAX (092)922-9524
ホームページ　http://www.kotodazaifu.net/index.htm

四王寺山三十三石仏

※18番・20番・27番札所には、後世に建立された石仏がありますので、あわせてご紹介しています。

1番 如意輪観音

2番 十一面観音

3番 千手観音

4番 千手観音

5番 千手観音

6番 三宝荒神

7番 如意輪観音

8番 十一面観音

9番 馬頭観音（推定）

10番 千手観音

11番 聖観音（推定）

12番 千手観音

13番如意輪観音

14番如意輪観音

15番十一面観音

16番 千手観音

17番十一面観音
側に聖観音あり

18番如意輪観音

（18番十一面観音）

19番 千手観音

20番 千手観音

（20番三宝荒神）

21番十一面観音（推定）

22番 千手観音

23番 千手観音

24番 千手観音

25番 千手観音（推定）

26番 千手観音

27番如意輪観音

（27番尊名不詳）

28番 聖観音（推定）

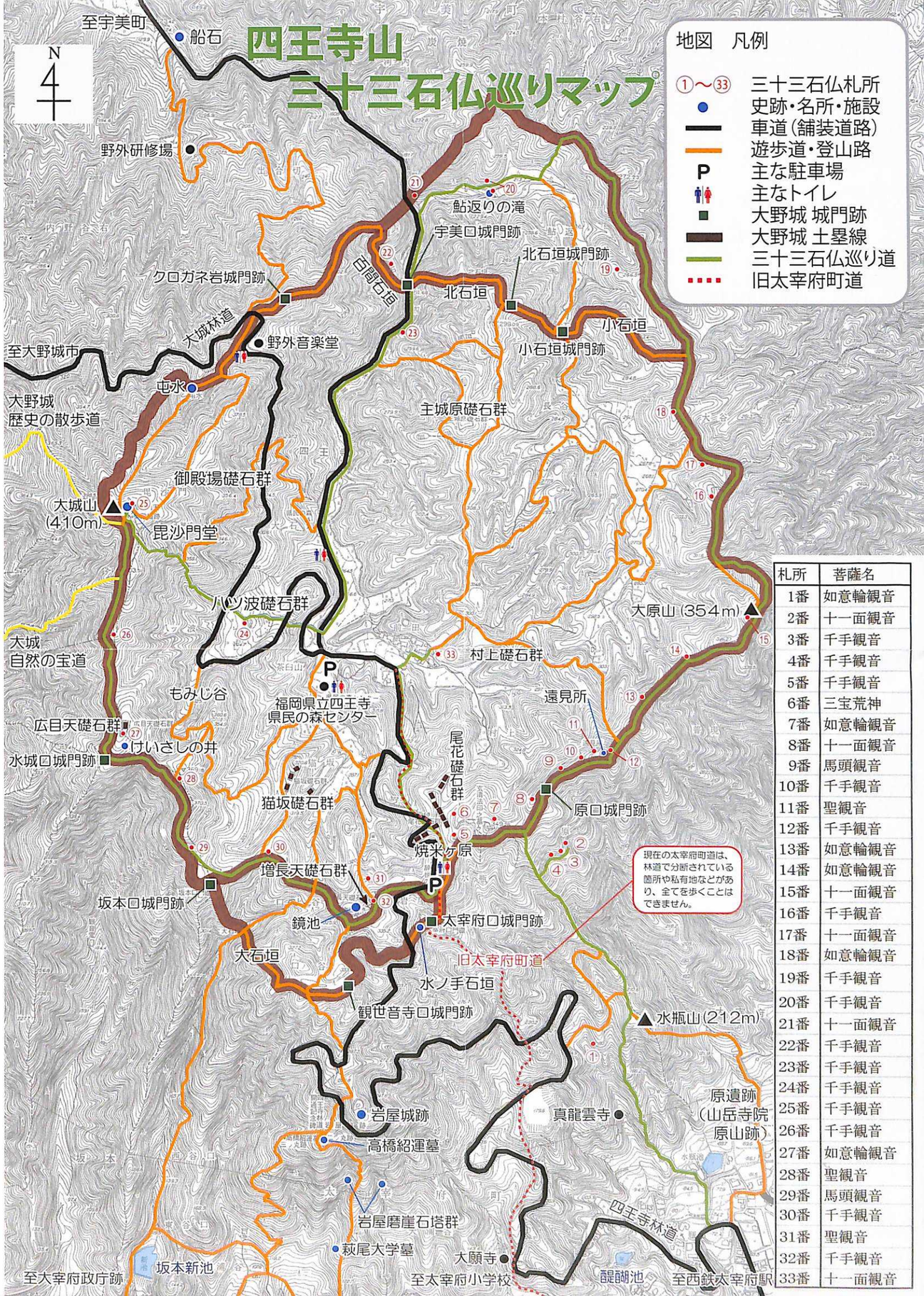
29番 馬頭観音

30番 千手観音

31番 聖観音

32番 千手観音

33番十一面観音



札所	菩薩名
1番	如意輪観音
2番	十一面観音
3番	千手観音
4番	千手観音
5番	千手観音
6番	三宝荒神
7番	如意輪観音
8番	十一面観音
9番	馬頭観音
10番	千手観音
11番	聖観音
12番	千手観音
13番	如意輪観音
14番	如意輪観音
15番	十一面観音
16番	千手観音
17番	十一面観音
18番	如意輪観音
19番	千手観音
20番	千手観音
21番	十一面観音
22番	千手観音
23番	千手観音
24番	千手観音
25番	千手観音
26番	千手観音
27番	如意輪観音
28番	聖観音
29番	馬頭観音
30番	千手観音
31番	聖観音
32番	千手観音
33番	十一面観音